

仁淀川 水防災意識社会 再構築ビジョンの取組状況 ～防災フィールドワークを実施～

中学生を対象に防災フィールドワークを実施。

【実施機関】
いの町

1. 実施日：平成29年5月12日
2. 対象者：伊野中学校1年生 生徒・教員合計約100名
3. 実施内容： **防災フィールドワークとして、班ごとに事前に決めたコースを巡回。**
伊野の市街地浸水を防御する早稲川放水路の役割や効果、情報伝達手段としての防災行政無線などについて説明・学習した。
4. 感想： 防災フィールドワークに参加した生徒からは、以下の様な声が聞かれた。
 - ・普段何気なく通学しているが、**危険な箇所(家や塀が倒れそう)は注意したら分かった。** 町内にも防災用の設備(消火栓・防火水槽・防災無線等)があちこちにあることが分かった。
 - ・**防災行政無線放送の仕組みや災害時の役割が分かった。**
 - ・**昭和50年の台風の際、伊野の街中が浸水したこともあまり知らなかった。**
 - ・**早稲川放水路は、ダムとっていたが、洪水を防ぐ放水路と初めて知った。**

諸注意と説明の様子



消防行政無線については、その仕組み、役場からの伝達方法、停電時でも20時間程度は使用できることなどを学習。また、実際にマイクで試験放送。

市街地を中心に地震発生時の危険箇所、土砂災害の危険箇所、周囲と比べて低い土地、防災設備(消火栓・防火水槽・防災無線等)などを確認。

早稲川放水路は、昭和50年の台風5号の際、伊野市街地が大規模浸水したことを受け、建造された施設で、最大70m³/sの放水量、高低差も新宇治川放水路と異なり大きいことなどを説明。

消防栓

防火水槽

商店街：道路はそれなりにあるが、両側の建物土がくっついており、火災が爆発しやすい懸念。

内野公園：防災行政無線機内部音声あり

早稲川放水路の航空写真

この家の裏も、壁も崩れなくなったり、地震火災発生時、火煙燻が火災につながる可能性がある。

築造年数から判断、壁が傾くことにより通柱と、船着川を横断する壁があるので、川に接して住宅が建っていることが見受けやすい。

壁は崩れやすいが、古い築造年数、地震などの揺れに対して、緊急車両(救急車・消防車・パトカー等)の通行の支障となる可能性あり。また、避難経路を確保する。

町内全域で浸水箇所が多く、所有者のおからないケースもある。

早稲川放水路